

健康

質問

70代の女性です。検診で異常を指摘され、精密検査の結果、肺がんと診断されました。内科と外科の医師から抗がん剤治療と放射線治療を一緒にする治療法を勧められました。放射線というと被ばくのイメージがあり心配です。放射線治療はどんな治療法ですか。

放射線治療とは



山下 恭

県立中央病院  
放射線科部長

回答

肺がんの  
治療法には

手術、放射線治療、抗がん剤治療などがあり、病気の進行度合いなどにより、これらを組み合わせ

て治療が行われます。

がんができてきている肺は、息を吸えば膨らみ、吐くとき縮む。つまり呼吸によって動く臓器です。当然肺にできているがんも呼吸によって動き

ます。放射線治療ではこの呼吸による動き（呼吸性移動）を十分に加味して放射線を当てる範囲を決めます。そのために、放射線治療に同意する

とまず、放射線を当てる範囲を決めるためのコンピュータ断層撮影（CT）画像を撮影します。

そのCT画像を、放射線をどうやって当てるか計画する専用のコンピュータに転送し、病気の箇

CT画像で照射部確定



所に十分当たり、その上で当たってほしくない正常の臓器には許容されている範囲内しか当たらない治療計画を立てます。

治療が始まったら定期的に様子を見て、もし腫瘍などの大きさや形が変化した場合は、県立中央病院ではその都度治療計画を立て直し、不必要な部分にできるだけ放射線

が当たらない工夫をしています。放射線を継続していま

す。実際の治療は人によって異なりますが、1カ月から1カ月半くらいの期間で毎日行い、1回の治療時間は10〜15分のことが多いです。

県立中央病院の場合、呼吸性移動が大きくなると判断された場合には呼吸性移動を最小限にするよう、次の方法で治療に当たります。

一つは患者に息を止めてもらい、息を止めている間だけ放射線を当てる「息止め照射」という方法です。もう一つは患者の呼吸を観察して、息を吐いた時だけ放射線が出

るシステムを使って放射線を当てる「呼吸同期照射」です。

また近年はコンピュータの発達に伴い、病気のところには放射線を十分当てながら正常臓器にはあまり当たらないように、放射線の量の強弱を付けながら放射線を当てることができます。この技術を強度変調放射線治療と言います。県内では県立中央病院が初めて呼吸同期照射と肺がん患者への強度変調放射線治療を開始しました。近年はさまざまな高度な技術を使って放射線治療が実施できるようになっています。比較的安心して治療を受けることができます。

可能性のある副作用として、治療中は皮膚の色が変わるといった皮膚炎と、食べたり飲んだりした時に痛みが出る食道炎があり、治療後は主に肺炎があります。

初めての経験は心配だと思います。担当医の話をよく聞き、十分に納得の上で治療を受けてください。（第4土曜掲載）



放射線治療で使用する装置  
—県立中央病院

近年は比較的的安全に

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
〈電088(634)6442〉  
(平日午前8時～午後5時)  
（午後5時～）

